

関係各位

令和6年4月吉日

令和6年度浜松版理科カリキュラム『出前授業』実施について



## 1. 事業の趣旨と背景

浜松 RAIN 房は、浜松市・静岡大学が連携してものづくり・理科の学習体験の場を提供するネットワークです。

浜松版理科カリキュラムは、市内の小中学校に対して理科・ものづくり体験の支援を行う、浜松 RAIN 房の支援事業のひとつです。浜松の自然や環境、産業、人材、施設等を取り入れ、実験・観察、ものづくりや体験等を通じた浜松独自の理科カリキュラムによる指導を通じて、子供達の科学的な見方や考え方、科学する心や自然を愛する心を養うことを目的としております。

本年度も「出前授業」を実施する学校の募集を行います。多くの学校のご応募を歓迎いたします。

## 2. 「出前授業」支援について

募集期間：令和6年5月～令和7年2月

対象：浜松市内の小中学校

支援額：1校につき5万円以内（範囲内であれば何講座でもお申し込みいただけます）

（理科・ものづくり等に関する授業・実習について、5万円までの講師謝金・教材費等を支援します）

※昨年度からの変更点です。ご注意ください。

・多くの小中学校に平等に講座を受講していただけるよう、1校あたりの上限金額を5万円に設定させていただきます。（※上限を超える場合、講座の内容・人数によってはご対応させていただきますので、浜松 RAIN 房までご相談ください。）

・講師1名のみ：1時間（1コマ）3,000円（交通費を含む）、講師補助1人あたり1時間（1コマ）1,100円（交通費を含む）のお支払いとさせていただきます。

※ バス代は支援の対象外となりますのでご了承ください。

※ パソコン等の備品類の購入、一般的な事務用品の購入（教材として使用する場合を除く）、飲食等に関わる費用は支援対象外です。

※ なお、支援の予算に限りがありますので、応募多数の場合は、授業内容、日程、地域バランス等を考慮し、選考させて頂くことがあります。予めご了承ください。

## 3. 応募の方法

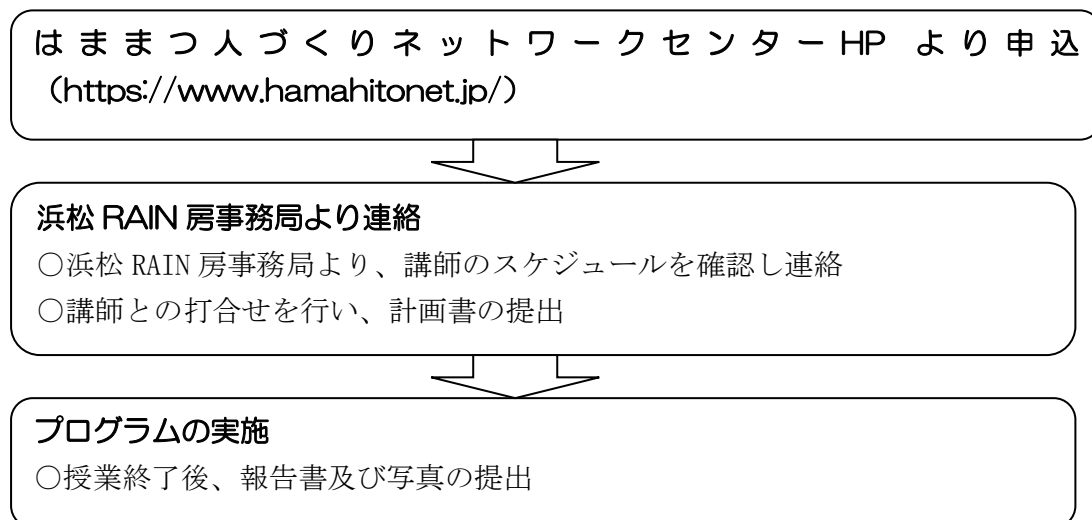
出前授業の一覧及び各概要は、はままつ人づくりネットワークセンターのホームページで閲覧できます。講座紹介一覧から「Web 申込」よりフォームに記入してお申し込みください。

(<https://www.hamahitonet.jp/>)

お申し込み後、浜松 RAIN 房事務局から実施についてご連絡いたします。1週間以上お返事がない

場合はご連絡下さい。

#### ※浜松版理科カリキュラム『出前授業』実施の流れ



#### 4. 会計処理

会計処理は静岡大学が行います。

※支援経費の現金払い、立替払いはできません。教材等の経費支払いには、注文書、見積書、請求書、納品書が必要です。また、購入物品、印刷物等は使用前に大学での検収が必要です。  
詳しくは浜松 RAIN 房事務局までお尋ねください。

#### 5. 報告書の提出

授業終了後 2 週間以内に浜松 RAIN 房宛へ報告書及び写真データ（3 枚程度）を提出してください。  
なお、事業報告・写真は、ホームページ等を通じて一般公開いたしますのでご了承ください。

#### 6. その他

- ・「ホームページのプログラム以外でしたいことがある」「プログラムの内容を一部変更して行いたい」など要望がありましたら、出来る限り対応していきたいと思いますので、ご相談下さい。
- ・当事業の利用に関わらず、講師の紹介等は随時受付けております。下記問い合わせ先まで御連絡下さい。

#### 7. お問い合わせ先

浜松 RAIN 房事務局（静岡大学工学部内）〒432-8561 浜松市中央区城北 3-5-1

電話: 053-478-1759

Email: [trainbow@shizuoka.ac.jp](mailto:trainbow@shizuoka.ac.jp)

浜松 RAIN 房

<http://train1.eng.shizuoka.ac.jp>

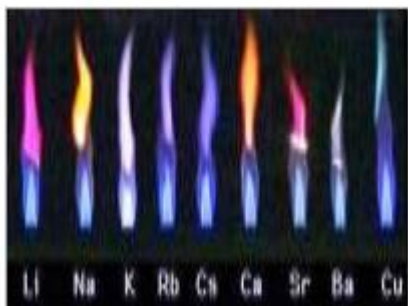
## 「出前授業」実施例

### サイエンスショー



◆理科・科学離れが進んでいる中で実験を通して「なぜ？」を皆で考えながら実際に見て触って体験をしてもらうことにより理科に興味を持つきっかけを作る。  
液体窒素を使った「お花サクサク」は全員参加型の実験で特に興味が深まる。

### 炎色反応～花火の色はどのようにしてつけるのか？～



◆炎の赤・青・黄などの色はどのようにつけられているか、ガスバーナーを使って実際に調べてみる。直視分光器を使って光の波長と色の関係についても学ぶ。

### 学校プールヤゴ救出作戦



◆学校のプールの清掃時に、プールで育ったヤゴを救出することで自然への興味・関心を高める。また、救出したヤゴを飼育し羽化させることで自然の不思議さに触れさせ、生命尊重の気持ちを高める。

### ロボット講座



◆自分でプログラムを組んでロボットを動かすことを通じて「ロボットとは何か(ロボットの制御・センサーの役割等ロボットの仕組み)」について体得する。

中学生向けプログラムではロボット制御に用いられる簡単なデジタル回路についても学ぶ。

※その他、学校近くの裏山や川での生き物観察等ご希望がありましたらご相談ください。